

新型コロナウイルス第7波・感染爆発の状況下、住民の皆様へ

いわき医師会会長 木村守和

はじめに

第7波の感染爆発で、コロナ対応と通常診療に迫られ医療機関はひっ迫状況となっています。

住民の皆様には感染対策を徹底し感染防御に努めていただくほか、医療機関に過大な負荷がかからないように医療機関へのアプローチの仕方についてご注意いただきたいと考えております。

1 受けることができる方は、3回目・4回目ワクチン接種を受けましょう

若い方の3回目接種が進んでいませんので、ご検討をお願いします

2 感染経路を意識して、基本的な感染対策を徹底しましょう

いつも一緒の人以外は、ウイルスを持っている可能性があります
お互いに不織布マスクを正しく着用し、換気することが大切です
戸外でも混雑すると、感染の危険があります

3 発熱・咳・咽頭痛などの症状が出た時の対応について

発症から約1日たたないと、抗原（定性）検査が陽性にならないことが多いです
例えば、午前中発症の場合、翌日午前に受診を考えましょう
翌日が休日の場合は、症状が軽ければ平日の受診を考えましょう

4 自宅療養の可能性を考慮し、普段から備えるべき点について

鎮痛解熱剤を準備しましょう（子供はアセトアミノフェン含有のもの、大人は持病がなければロキソニン・イブなどでOK）、できれば咳止めもあるとよいです
いつものお薬は、10日分程度余分に持っているようにしましょう
最低1週間分の食糧を、備蓄しておきましょう

5 いわきの平日などの発熱外来体制について

平日でも、発熱者を診る医療機関の外来はひっ迫しています
感染者が急増する場合、症状の軽い方には自宅で様子を見ていただく場合もあり得ます
必ず医療機関に電話をして、指示を受けてから受診してください

6 いわきの日曜・休日などの発熱外来体制について

医師会から声かけして、7月24日から8月の日曜・祝日・お盆（8月13日・15日）に発熱外来体制をとっています（主に9時から13時までです）
発熱外来を行う医療機関数が1日5～7件の日が多いのですが、2件程度の日もあります
そういう日は軽症の方は受診を控え、外来数が多い日に受診するようお願いいたします

7 職場から検査をすすめること、陰性証明をもらうようすすめることはやめてください

無症状の方の検査をする余力は、現在の医療機関にはありません。
濃厚接触者の方は、県の抗原定性検査キット配布事業の利用を検討してください
新型コロナウイルス感染症が治っても、PCR検査ではウイルスの残骸を増幅し陽性が持続することもあります。陰性証明は、どの医療機関も出しません。

おわりに

医療資源には限りがありますので、受診の仕方等を考慮して医療機関を守る必要があります。

自分や家族・友人の健康を守るため、いわきの医療を守るために、住民すべてが危機感を共有して行動していく必要があります。

いわきの住民の皆様の力を結集し、この難しい局面を乗り切って参りましょう。